

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポピー		
所在地	小樽市入船4丁目2番3号 (電話) 0134-31-5343		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	17 人	常勤 8人, 非常勤 9人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	サイディング 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費実費 円
敷金	有(0 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	14 名	男性 3 名	女性 11 名
要介護1	0	要介護2	4
要介護3	4	要介護4	4
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道済生会小樽病院、医療法人社団松島医院、他2件
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成13年に開設されたレジデンスポピーは、地域密着型サービス導入以前から、地域との交流による認知症ケアを提唱しており、運営者や職員が日々地道に努力をされ、地域における社会福祉資源の一つとして運営が展開されています。地域との交流や活動は具体的な取り組みがされています。また、日常的生活活動においては丁寧に個別の機能訓練計画を策定し、利用者の身体状況や精神状態に配慮しながら、利用者本位のケアサービスを提供しています。更に医療機関との連携や真心こもる職員接遇、清潔感を大切にしており、前身の学生寮、高齢者住宅から設置されている居室のミニキッチンやユニットバスも特徴的な設備になっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、身体機能の低下を補う配慮、継続的な研修の受講、事故の報告書と活用、市町村との関わりが改善課題でしたが、階段の昇降機の設置や研修の充実、市町村への積極的な情報の発信など、すでに取組まれ改善されています。事故報告書の判り易い記録の整備は現在検討されています。</p> <p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者はサービス評価を積極的に活用して行こうと前向きな姿勢で臨み、評価の意義などを積極的に伝え、職員全員で自己評価を実施しています。また、一連のサービス評価を質の向上に役立たせる取り組みが図られています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、実際のケアサービスの意見交換のほか、地域密着型サービスを展開していくための方向性や地域ニーズについて討議されています。これまでに地域と連携を図ったさまざまな取り組みが実現しており、具体的なアイデアがだされ、運営に活かされています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口を設置し、家族からの指摘や苦情について受け入れる体制が整備され、家族訪問時などでは、コミュニケーションを図りながら思いなどを伺うようにしています。今後は、提供しているサービスや、ホーム設備に関する詳細な説明を行なう中での課題発見及び家族の意見が具体的にホーム運営に反映されるよう取組みに期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者及び、家族の方々は、町内会や地域の人々、さまざまな地域のボランティア団体と、日常的な趣味支援や大規模なホーム祭りなどの行事を通じて積極的に交流を図っています。災害対策での協力や地域へのホーム機能の還元など、お互いに支え合うの関係が構築されており、地域との連携が益々増加しています。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、地域密着型サービスの意義を確認しており、これまでの理念を見直され、新たに住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるための事業所理念を策定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、朝の申し送り時の唱和や、日々の職員間の話し合いの中で確認しており、理念を掘り下げ、具体的なケアの実践に日々取り組んでいる。職員は、何時でも原点に立ち戻れるよう理念が書かれているプレートを携帯し、ホーム理念にもとづくサービスの向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム夏祭りは、町内会の方々やボランティアなど大勢の参加者で賑わっている。また、医療関係者の協力のもと出前健康教室を開催し、ホーム機能の還元を図っている。ホームでは、利用者一人ひとりが地域交流や活動を通じて地域と係わりを持つことの重要性を具現化しており積極的にケアサービスや運営のなかで展開されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は、評価のねらいや目的を職員に周知しており、自己評価は全職員の話し合いで作られている。また、自己評価による点検及び外部評価の結果を踏まえながら、改善に向けて具体案の検討や実践への努力を行なっている。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6月より3回の会議が開催されており、利用者の状況やサービス提供の報告はもとより、地域密着型サービスのための具体的な方策について協議されている。地域交流活動として実施された出前健康教室は会議での協議が活かされた事業として実現している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へは電話やファックスで、ホーム事業などについてお知らせしたり、案件については、その都度相談や情報の交換を行なっている。また、市が行なうグループホーム会議や連絡協議会を通じて連携を図りながら、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時や電話以外に、毎月「ホーム便り」を発行して個別のお便りや写真で利用者の暮らしぶりを知らせるほか、金銭についても定期的に報告をしている。健康状態や受診についても随時報告をし、家族の安心につなげている。今後は職員の異動に関しその都度、家族への報告を行なう予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内、外部に苦情相談窓口を設け、苦情など収集体制を整えるほか、家族訪問の際、雰囲気作りに配慮し意見や要望を聞くよう努めているが、日常的な運営について会話などの中から些細な意見・要望を取り入れる工夫については十分ではない。	○	利用者の安全確保上、設置しているTVモニターや居室の設備利用方法（ミニキッチン・ユニットバス）などについても、より詳細な説明を行なう中で、個別的な家族の意見や不満を吸収できる体制を整え、ホーム運営に反映させる取り組みを今後期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の移動や離職がやむを得ず発生した場合には、時間をかけて利用者への引継ぎを十分行ない、日常生活や心理面で支障をきたさぬよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は外部講師を招くなど積極的に学びの機会を確保しており、外部研修についてもできる限り参加している。介護における課題発生時には即座に検討しトレーニングや学習を深める体制が取られている。職員は幅広い年齢層で構成され、お互いの気づきや持ち味を高め、ケアサービスにあたっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携や交流の必要性を認識しており、双方の諸行事にホーム全体で参加し合うなど、利用者を交えた交流を積極的に実施している。また、市のグループホーム連絡協議会での意見交流や、研修を通じてサービスの質の向上を図っているほか、さらにネットワークの拡大を目指している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族のホーム見学、さらには職員が自宅を訪問するなど、利用開始前に馴染みの関係作りや安心感を持って頂けるよう初期対応に配慮した支援を行なっている。入居後は、本人の好きな献立を提供するなど、利用者の希望や意向の把握に努め、安定した生活ができるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、年長者である利用者の尊厳性を大切に、裁縫や食事の味付けなど昔ながらの知恵や文化を教えて頂たく場面を工夫しながら、学び合い支え合う関係作りに努めている。利用者が職員を気遣う場面があるなど、生活をともにする者同士の心の交流や信頼関係が伺われる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事作りでは、どのような作業を好んでいるか、食後の過ごし方など、些細な生活の場面でも本人の意向を確認しながら希望に添った活動や生活ができるよう支援している。意思疎通が困難な場合には、表情や雰囲気等を察知し、また、家族からの情報を得ながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でアセスメント・モニタリング・カンファレンスを実施して課題を整理し、本人や家族の思い、医療関係者の意見をもとに、ゆったりと安心した生活を送るための介護計画をチームで作成している。また、介護計画に添った個別の記録方式を採り、確実な検証を行ないながら生活プランを導きだせるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、長期6ヵ月、短期3ヵ月の期間を明示し、期間終了前にはモニタリングを実施し、見直しを行なっている。介護計画と照らし合わせる現状の確認が日々行なわれており、危険を察知した場合など、利用者の状況変化に応じた見直しや予防対応策が臨機応変に実施されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お彼岸やお盆など利用者が大切にしている行事では個別の外出、買物支援サービスなどを提供し、出前健康教室を開催するなど地域に根を張りながらの事業所独自のサービスを展開している。移送、通院サービス事業所と連携を図り、車椅子での移動の円滑性を高めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望や状況に応じ、これまでの掛け付け医に受診できるよう支援したり、医療機関と連携を図りながら、通院や応診の体制を整えている。生活記録で受診内容を明らかにし、家族との情報伝達を行ないながら適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時などに重度化や終末期のあり方について、ホームの方針を家族に口頭で説明をし、共有を図っている。開設から7年経過している現在、利用者や家族の状況変化に対応する意向確認を含めた話し合いや合意、対応指針の文書化について取り組みは実施されていない。	○	ホームでは今後、本人や家族の意向確認を行ないながら、安心して終末期の対応が図られるよう段階的に話し合いや合意の体制を整備する予定があり、その取り組みの実現化を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや尊厳を維持することや、個人情報保護について契約文書などで明示し徹底化に努めている。利用者と職員の会話では、人格を尊重した言葉遣いでの対応が伺われた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、職員は、本人の生活のリズムやその時々気持ちを大切に、認知力やADLの低下により希望の表出が困難な場合には、表情の違いにより把握するなど支援している。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや味付け、後片付けなど食事一連の流れをできるだけ職員とともに行なえるよう支援しており、利用者の意思や気持ちを尊重しながら、一人ひとりの力を活かす場面作りに努めている。献立は彩りが良く、雰囲気大切にしながら中々ゆったりと食事が取られていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各自の居室にあるユニットバスを利用して、最低でも週2～3回入浴が実施されており、可能な限り利用者の希望に合わせた時間帯で支援されている。決して無理強いせず、言葉掛けやタイミングなどに工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事では利用者の状況に応じて役割を分担し、お茶の振舞いやプランターでの野菜作りなど、生活歴を考慮して張り合いのある楽しみごとの場面作りを行ない支援している。地域行事への参加も気晴らしの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩や買物など、日常的な外出のほか、イベントやお祭りに出向きその場の雰囲気を味わったり、ほかのグループホームの敬老会に参加をするなど、目的を持ちできるだけ積極的に戸外へ出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は一般家庭と同様、防犯のため施錠しているが、日中は施錠はしていない。玄関ドアにはチャイムを取り付け、出入りが分かるようにするとともに、見守りを強化したり、外出傾向を把握して、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をしている。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回の総合訓練を実施しており、消火器の取り扱い方や昼夜を想定した実践的な避難訓練が地域住民との連携のもと行なわれている。災害時には地域の協力が得られるよう体制を整えており、水や懐中電灯などの備品を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った支援を基本に、食事や水分摂取量を記録して状態把握に努めている。医療機関の栄養士が作成した献立を参考にして毎日のメニューを考え、栄養摂取量に配慮している。普通食が困難な利用者には刻み食やミキサー食、とろみを付けて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階ユニットの共用空間が改装され、居間はスペースが拡充し、廊下の避難口にも配慮が見られる造りになっている。階段には昇降機が設置され、身体機能の低下に配慮している。居間や廊下の壁面に飾られた利用者手作りの装飾品は季節感を醸し出し、眺めのよい景色とともに皆が集まる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ミニキッチンとユニットバスが設備され、洗面や入浴、トイレ（ポータブル含む）使用は各自の部屋で支援されている。居室のベット、寝具などは本人が使いやすいように配慮され、生活雑貨や思い出の品々が好みに応じて収納されていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。